



青南だより

令和7年1月号
港区立青南幼稚園
園長 石川 典子

今年度の学びの集大成となる3学期が始まります。今年の干支『巳』の“成長の年で幸運が訪れやすい”という縁起のいい由来のように、幼児がさらに成長し、就学・進級に自信や期待感もてるよう、遊びや行事を通して一人ひとりを育みます。ご期待ください。

さて、年少児から中学1年生までの生活習慣・学びに向かう力（好奇心・自己主張・協調性・自己抑制・がんばる力）・認知の関連や育ちについての研究を目にする機会があり、内容は大変興味深いものでした。

年少児の生活習慣は年中児の学びに向かう力（協調性）に、年中児の学びに向かう力は年長児の認知（言葉のスキル）に影響する。また、年長児の生活習慣・学びに向かう力（自己抑制・がんばる力・認知：言葉スキル）は、小学校1年生の「学習態度」を支えているとのことです。「生活習慣」が「学びに向かう力」・「認知」の下支えとなり、1年生以降の生活や学習などに大きく影響するという事です。

学びに向かう力の中で、特に学力に影響する力と言われているのが「好奇心」と「がんばる力」だそうです。「好奇心」と「がんばる力」は、幼児期と小学校低学年では、保護者のかかわりが大きく影響します。保護者が意欲の尊重（子どものやりたいことを尊重して支援したり、気持ちを受け止めたりする態度）をしたり、思考の促し（子どもの質問に簡単に答えたり、自分で考えなさいと突き放したりすることなく、子どもが自分で考えられるように促す態度）をしたりすることで、子どもの「生活習慣・学習態度」や「好奇心」「がんばる力」は向上します。幼児期以降に積み上げられた「学習態度」や「がんばる力」は、中学1年生の「言葉スキル」や「理論性」に影響していくそうです。そう考えると、保護者が子どもの意欲を尊重することは、子どもが中学生以降、新しい事柄に対しても前向きに学び続けていくための支援として不可欠です。

子どもが育つには、周囲の大人の日々の丁寧な関わりが必要です。子どもの思いに寄り添い共感しながら、親子で、幼稚園で、子どもが楽しく生活できるようにし、子どもたちの内面を育てていきましょう。今学期も、ご理解・ご協力をお願いいたします。



青南幼稚園は、3年間の発達を見通した質の高い教育活動を推進しています

本園は、保護者が子育てに安心して向き合えるように、子育ての支援・保護者との連携を工夫しています。
(港区立青南幼稚園 経営方針 中期的目標と方策より抜粋)